

令和5年度 学校評価のまとめ

山形県立上山高等養護学校

1 アンケート全体から

(1) 過去2年間と今年度を比較した結果は以下のとおりである。

- ① 生徒の評価は全体的に高い評価となっている。90%を下回った項目が二つ見られた。
- ② 保護者の評価は令和3・4年度とほぼ同様だが、数値がやや下がっている傾向がある。
- ③ 職員の評価は「教材研究や担当業務を行う時間が確保されている」が一番低くなっている。

2 生徒のアンケート結果

(1) 評価の高い項目 100%

- ・設問 4 「清潔面や身だしなみが身に付いている」
 - ・設問 8 「自分は好きなことや得意なことがある」
 - ・設問 16 「寄宿舎の先生は自分のことをわかってくれる」
 - ・設問 18 「洗濯や掃除など身の回りのことができるようになってきている」
- ※ 過去3年間と比較すると、設問4、7、11、14、15は、年々伸びが見られる。

(2) 評価の低い項目 90%未満の項目をあげました。

- ・設問 14 「地域のために役だったり、地域の人と関わったりして活動することができた」
 - ・設問 15 「自分にとって寄宿舎生活は充実している」
- ※ コロナ感染症が2類から5類に変わったが、まだまだ様々な活動制限の解除に踏み切れなかったことが多かったと思われる。

(3) 昨年度より評価が下がった項目

- ・設問 5 「先生は自分のことをわかってくれる」
 - ・設問 11 「自分にとって授業はわかりやすい」 等
- 二つの項目とも、昨年度より1～2名の生徒の評価が下がった。

(4) 自由記述

「クラスのみんなど仲良く過ごせた。」、「職業で褒められてやる気がでた。」など、プラスの面の記載が見られた。一方「たまに悩みの種が消えないことがある。」、「緊張してしまうことがあった。」等、今後も注意深く見守り、適切な支援を考えていく上での意見もあった。

3 保護者のアンケート結果

(1) 評価の高い項目 100%

- ・設問 14 「お子さんにとって寄宿舎生活は充実している」
- ・設問 15 「寄宿舎指導員はお子さんのことを理解して接している」

(2) 評価の低い項目 90%未満

- ・設問 8 「お子さんは、生活に必要な力や働く力が身に付いてきている」

(3) 昨年度より評価が下がった項目

大きく下がった項目はないが、以下の項目で低下が見られる。

- ・設問 1 「お子さんにとって学校生活は充実している」
- ・設問 10 「お子さんと保護者の相談に、担任、担当者は親身に対応している」
- ・設問 16 「寄宿舎での行事や余暇活動は充実している」
- ・設問 17 「お子さんは身の回りのことができるようになってきている」

(4) 自由記述

「日々生き生きしている息子を見てうれしいです。」「上高養に入れて本当に良かった。」などプラスの意見をいただいた。反面、「社会人として必要な部分や個性を生かしたことについてだまげ離れていると思う。色の指定。実習中の連絡の禁止。帰宅電話などは親としても納得いきません。世の中に流れに逆行していると思われる。」等の意見もいただいた。

いただいた意見を参考にしながら新しい校則について、生徒会と一緒に見直しを進めています。

4 教職員のアンケート結果

(1) 評価の高い項目 100%が増えた。

- ・設問 1 「生徒にとって充実した学校生活（寄宿舎生活）を提供している。」
- ・設問 2 「生徒は自分の目標に向け、考えたり行動したりしている。」

(2) 評価の低い項目 80%未満についてはなかった。

- ・設問 12 「センター的機能など地域に貢献している。地域に開かれた教育課程が実施されている。」 (82%)
- ・設問 17 「働きやすい職場になっている。」 (87%)
- ・設問 19 「教材研究や担当業務を行う時間が確保されている。」 (81%)

(3) 評価が大きく向上した項目

- ・設問 21 「寄宿舎での行事や余暇活動は充実している。」 33%UP
- ・設問 17 「働きやすい職場になっている。」 25%UP
- ・設問 19 「教材研究や担当業務を行う時間が確保されている。」 19%UP

5 まとめと考察

(1) 生徒が明るく、元気に関りを合って学習・生活できるような安心・安全な学校をつくる

○多くの生徒は、学校生活が充実していると感じている。昨年度と同様に学級担任や舎担当を中心に関係者が連携し、生徒の様子に気を配り情報を共有したり、いじめの未然防止や問題行動について早期発見、早期対応に努めたりしている結果であると考えられる。

▲寄宿舎生の評価で、寄宿舎での生活の充実に関する評価が低かった。今後は生徒の意見を聞き、どのように改善することが充実した生活につながるか、生徒と教員と一緒に考え、検討・実施していきたい。

(2) 適切な教育課程の下、指導・支援の充実を図り、生きる力を育む授業を推進していく

○今年度も生徒や保護者からは全体的に高い評価を得ている。これは「傾聴と共感」の教職員の姿勢について、全員で継続して共通理解を図ってきたことの表れであると考えられる。

▲評価項目で、生徒の「自分にとって授業がわかりやすい」、保護者の「お子さんは生活に必要な力や働く力は身に付いてきている」、教員の「社会のルールやマナーが身に付いている」がそれぞれ低くなっている。これらの項目について、授業や様々な活動の中で、生きる力を育み、社会に対応できる力の育成に今後とも努めていきたい。

(3) 保護者、地域、関係機関等と連携し、生徒の就労の実現をめざす

▲全般的に地域とのつながりが感じられないと感じる傾向が見られる。「学校や寄宿舎で生活の様子を十分に知らせていない」という評価が多かった。今後も、家庭と学校の連携でそう感じる理由は何かをお聞きし、丁寧に対応していきたい。なお、アフターコロナにおいては、真に必要な活動かどうか考えた実施を文部科学省も求めている。本校にとっての地域は、学校所在地と居住地の両者の考えもあることから、まずはこの学校のある地域の中で何ができるか吟味していきたい。また就労を含め、様々なとこ路で関わる関係機関とは信頼関係を基盤に深めていきたい。

(4) 働き方改革の推進、同僚性の向上を通し、働きやすく、働きがいのある学校をめざす

▲教員の働き方改革を進め、全体的に評価が良くなっている。保護者の方に御理解・御協力いただき、短縮日課を設定するなどして、授業時数の削減を進めてきた成果も現れていると思う。次年度も、「ノー会議デーの設定」や「一斉退校日」など、限られた時間の有効活用等のマネジメントに努めるとともに、業務の優先度・重要度を意識した仕事の進め方に努める。

▲教師自身のゆとりを大切にすることが、リフレッシュした気持ちで業務に取り組むことにつながり、子どもたちのより良い支援にもつながっていることを意識し、学校教育活動すべてが有意義になるように取り組んでいきたい。

(5) 自由記述について

生徒や保護者の方からも肯定的な意見が多かった。生徒からは、友だちが出来たことや職業科で褒められたという記述が多かった。保護者の方からは、日々生き活きと生活していることや上高養に入学させて良かった等の意見をいただいた。

また、日々悩みの種が尽きないことや進路に対しての不安があることが生徒から上がった。

保護者の方からは、校則が時代にあっていないことや学校のきまりが社会の流れに反しているという意見が上げられた。

学校では、今後も生徒の悩みや相談に寄り添う支援を実践していきたい。また校則等については、現在生徒とともに見直しを進めています。新しい校則・考え方についても機会をみてお知らせしていきたいと考えています。